

● RNA-direct™ SYBR® Green Realtime PCR Master Mix の 使用条件 [Qiagen Rotor Gene Q]

(1) 反応液の調製

以下に、25 µL 反応時の調製例を示します。

試薬	25µL反応	最終濃度
滅菌水	X µL	
RNA-direct™ Realtime PCR Master Mix	12.5 µL	1x
50mM Mn(OAc) ₂	1.25 µL	2.5 mM
Forward Primer	7.5 pmol	0.3 µM* ¹
Reverse Primer	7.5 pmol	0.3 µM* ¹
Total RNA sample	<1.25 µg (mRNAは250 ng)	<1µg
合計液量	25 µL	

*1: プライマー濃度は、最終濃度0.2~0.6 µMを目安にご検討ください。

(2) RT-PCR条件設定

ステップ	温度	時間	昇降速度
逆転写反作用変性	90° C	30秒	最大
逆転写反応	61° C	20分	最大
PCR初期変性	95° C	60秒	最大
PCR 変性	95° C	15秒	最大
(45 cycles)) アニーリング	55~65° C* ²	15秒	最大
伸長	74° C* ²	30秒	最大
(Data Collectionは伸長ステップに設定します)			
融解曲線分析 (Melting / Dissociation Curve Analysis)			

*2: アニーリング温度の設定は、プライマーのT_mと同じ温度からT_m-5° Cの範囲に設定してください。
非特異反応が多い場合は温度を上げることで改善される場合があります。